

## 第2章 本市のスポーツの現状と課題

本市における市民及びスポーツ関係団体のスポーツに関する意識等を把握するため、世論調査及び意向調査を実施し、現状と調査結果を踏まえて課題を考察しました。

### 1. 市民のスポーツ活動

#### (1) 子どもの体力とスポーツ活動

##### ■現状■

新体力テストの記録

小学6年生男子	富士市		静岡県		全国	
	H26	R1	H26	R1	H26	R1
握力 (kg)	20.94	19.98	19.94	19.70	20.04	19.70
上体起こし (回)	22.36	21.09	22.21	21.67	21.69	22.98
長座体前屈 (cm)	35.37	35.06	35.32	35.19	34.08	35.49
反復横跳び (回)	45.61	44.07	46.45	45.75	45.79	47.02
20mシャトルラン (回)	63.82	56.52	63.71	60.36	62.62	65.49
50m走 (秒)	8.77	9.08	8.86	8.96	8.90	8.78
立ち幅跳び (cm)	167.79	162.46	167.00	165.46	163.72	167.08
ソフトボール投げ(m)	25.91	23.99	25.78	24.38	28.41	27.86
小学6年生女子	富士市		静岡県		全国	
種 目	H26	R1	H26	R1	H26	R1
握力 (kg)	19.86	19.48	19.37	19.32	19.74	19.37
上体起こし (回)	20.34	20.03	20.28	20.06	20.01	21.10
長座体前屈 (cm)	40.16	39.92	40.36	40.59	39.69	40.71
反復横跳び (回)	42.90	42.16	43.42	43.55	43.02	44.63
20mシャトルラン (回)	52.31	46.54	50.07	48.91	48.95	51.19
50m走 (秒)	9.06	9.27	9.15	9.22	9.12	9.12
立ち幅跳び (cm)	156.48	154.36	157.83	157.48	155.20	158.54
ソフトボール投げ(m)	16.08	15.75	16.26	16.05	16.85	16.80
中学3年生男子	富士市		静岡県		全国	
種 目	H26	R1	H26	R1	H26	R1
握力 (kg)	39.11	37.70	35.65	34.88	35.70	34.81
上体起こし (回)	32.86	32.50	31.88	31.13	30.78	30.35
長座体前屈 (cm)	54.52	54.32	50.35	51.36	47.90	47.89
反復横跳び (回)	58.43	58.35	57.63	57.64	55.64	56.85
持久走 (秒)	363.59	346.94	368.14	371.57	360.79	362.01
50m走 (秒)	7.24	7.23	7.45	7.42	7.44	7.42
立ち幅跳び (cm)	223.73	225.37	216.98	219.24	214.56	215.59
ソフトボール投げ(m)	26.93	27.12	25.14	24.64	24.76	24.26

新体力テストの記録

種目	富士市		静岡県		全国	
	H26	R1	H26	R1	H26	R1
握力 (kg)	27.80	27.40	26.10	26.06	25.48	25.71
上体起こし (回)	26.79	26.80	25.89	26.05	24.60	25.21
長座体前屈 (cm)	56.72	55.89	51.49	52.60	47.46	48.66
反復横跳び (回)	49.78	49.65	49.24	50.21	47.18	49.51
持久走 (秒)	276.04	279.11	283.15	284.82	283.89	278.26
50m走 (秒)	8.40	8.39	8.61	8.56	8.60	8.53
立ち幅跳び (cm)	184.69	185.86	178.51	181.21	174.04	177.11
ソフトボール投げ(m)	15.65	15.71	14.92	15.10	14.70	14.65

※小学6年生・中学3年生の記録を抜粋

資料：富士市学校教育課

スポーツ少年団の登録状況の推移

	H27	H28	H29	H30	R1
団体数(団体)	68	69	69	65	65
団員数 (人)	1,595	1,654	1,565	1,415	1,423

資料：富士市スポーツ少年団

■調査結果■

小・中学生の競技人口が減少していると感じるか (%)

選 択	割合
感じる	45.5
やや感じる	36.4
どちらともいえない	0.0
あまり感じない	9.1
感じない	0.0
未回答	9.0

資料：令和2年度スポーツ関係団体意向調査

■課題■

子どもの体力とスポーツ活動

新体力テストの記録の抜粋を見ると、小学6年生の体力が全国及び県と比較して低水準となっています。また、スポーツ少年団の団体数及び団員数が少子化とともに減少しており、子どものスポーツを「する」「みる」機会減少の一因にもなっているといます。このため、将来を担う子どもが心身ともに健康維持ができるよう体力向上及び運動習慣の定着を図ることが必要です。

(2) 成人のスポーツ活動

■現状■

富士市振興公社主催の主なスポーツ教室（令和元年度）

(人)

No.	教室名	対象	定員	参加人数
1	美フレッシュビクス教室	一般男女	120	120
2	気軽にヨガビギナーズ教室	一般男女	120	120
3	ヨガ教室	一般男女	140	140
4	フィットネスボール体操教室	一般男女	160	136
5	ポディーコンディショニング教室	一般男女	120	120
6	スマイルポディーフィットネス教室	一般男女	120	190
7	中高年のための筋力トレーニング教室	一般男女	280	239
8	目覚めのヨガ教室	一般男女	120	119
9	ズンバフィットネス教室	一般男女	120	114
10	リラックスヨガ教室	一般男女	240	268
11	美姿UPフィットネス教室	一般男女	160	141
12	女性のためのメノポーズケア教室	一般女性	100	92
13	ウォーキング教室	一般男女	30	13
14	楽しくシェイプ教室	一般男女	60	85
15	ココカラママビクス教室（託児付き）	子育て中の女性	40	26
16	ほのぼの健康体操教室	60歳以上男女	480	595
17	ぴんしゃん健康体操教室	60歳以上男女	200	200
18	さわやか健康体操教室	60歳以上男女	920	917
19	体力復活トレーニング教室	65歳以上男女	40	23

資料：富士市振興公社

■調査結果■

スポーツや運動の好き嫌い

(%)

選 択	割合
好き	27.1
どちらかといえば好き	31.9
どちらともいえない	24.0
どちらかといえば嫌い	12.0
嫌い	4.7

資料：令和元年度スポーツに関する市民意識調査

## 成人のスポーツ実施率

(%)

区分	週1回以上	週1回未満	行っていない
全体	43.0	31.2	25.8
男性	43.2	36.7	20.1
女性	43.0	26.9	30.1
20代	35.2	45.8	19.0
30代	30.3	40.0	29.7
40代	33.3	42.0	24.7
50代	43.6	32.6	23.8
60代	46.0	23.6	30.4
70代	55.7	20.3	24.0

## スポーツや運動ができていない理由（複数回答）

(%)

選 択	割合
家事、仕事、育児などで時間がないから	49.9
始めるきっかけがないから	30.3
病気、けが、高齢などの理由でスポーツや運動ができないから	26.2
スポーツや運動は嫌い、苦手、興味がないから	18.9
一緒に行く仲間がないから	16.0
施設・教室利用可能時間と自分の生活が合わないから	12.8
スポーツをする場所、施設が身近にないから	7.0
参加できる催し物がないから	4.8
スポーツに関する情報がないから	4.4
その他	5.8

## スポーツに期待すること（複数回答）

(%)

選 択	割合
心身の健康の維持・増進	79.4
趣味・生きがい・楽しみづくり	53.4
美容・ダイエット効果	30.6
スポーツを通しての仲間づくり	30.3
家族とのコミュニケーション	13.6
地域での親睦	13.0
プロスポーツ、全国大会等の観戦	10.1
青少年の健全育成	7.4
自分が行っているスポーツの競技力の向上	6.7
全国大会等に出場するようなアスリートの育成	3.4
その他	0.4
特になし	7.0

資料：令和元年度スポーツに関する市民意識調査

■課題■

**成人のスポーツ活動**

成人の週1回以上のスポーツ実施率では、年代別で30代と40代が一番低い状況となっており、年代が上がるにつれ実施率が上がっています。また、スポーツを全くしない人は、女性が男性より10ポイント多い30.1%となっています。さらに、スポーツや運動ができない理由として、「家事、仕事、育児などで時間がない」が49.9%で一番多くなっています。このため、家事、仕事、育児などでスポーツができない働き盛り世代と子育て世代を中心にスポーツ活動の推進を図る必要があります。

**高齢者のスポーツ活動**

「心身の健康の維持・増進」や「趣味・生きがい・楽しみづくり」をスポーツに期待する人が多く、週1回以上のスポーツ実施率は70代が55.7%で一番高い状況となっています。その一方で、スポーツを全くしなかった人のうち、60代が30.4%、70代が24.0%と多く、始めるきっかけがないことや年齢を理由にスポーツや運動ができていない人が多い状況です。このため、高齢者でもできるスポーツ・運動の普及やきっかけづくりが必要です。



## (3) 障害者のスポーツ活動

## ■現状■

障害者スポーツ事業の参加者の推移

(人)

事業内容	H29	H30	R1
スポーツ・レクリエーション教室	48	53	161
出前講座	113	171	300
障害者とスポーツ指導者の交流会	20	15	120
計	181	239	581

資料：富士市スポーツ振興課

## (参考)

障害者のスポーツ・レクリエーション実施率

(%)

区分	週1回以上	週1回未満	行っていない
成人	25.3	20.3	54.4
男性	27.7	21.3	51.0
女性	22.6	19.5	57.9

スポーツ・レクリエーションをやって良かったこと（複数回答）

(%)

選 択	割合
ストレスが解消される	35.8
体力・身体的機能が向上した	26.2
行動範囲が増えた	25.2
外出が増えた	24.0
体を動かすこと自体が楽しい	23.1
友人が増えた	17.0
自信がついた	14.0
食事がおいしく、夜、睡眠できるようになった	13.0
性格が明るくなった	7.8
相手の気持ちが配慮できるようになった	7.4
周囲の理解が向上した	7.0
勝利や記録が出た時に嬉しい	3.8
その他	3.8

資料：令和元年度障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究（スポーツ庁）

## ■課題■

## 障害者のスポーツ活動

スポーツ・レクリエーションを実施した障害者の感想として、ストレスの解消や体力・身体的機能の向上が挙げられています。しかしながら、障害者の半数以上はスポーツ・レクリエーションを体験できていません。このため、障害者スポーツの普及や機会を図る必要があります。

## 2. スポーツをささえる人材・団体

### (1) スポーツをささえる人材

#### ■現状■

スポーツリーダーバンク登録者の推移 (人)

区 分	H27	H28	H29	H30	R1
個人登録	35	46	58	53	44
スポーツ協会会員	41	44	44	47	34
計	76	90	102	100	78

資料：富士市スポーツ振興課

#### ■調査結果■

本市のスポーツ指導者について (%)

設 問	割合
指導者が高齢化している	72.8
指導者の育成が難しい	72.8
指導者がうまく活用されていない	54.6
指導者そのものが少ない	45.5
審判員が少ない	45.4
トップレベルの指導ができる指導者が少ない	36.4
一貫した指導が行われていない	36.4
ジュニアレベルの指導ができる指導者が少ない	27.3

※「感じる・やや感じる」と回答があった割合

資料：令和2年度スポーツ関係団体意向調査

スポーツボランティアについて

自由意見
ボランティアの協力なしで、スポーツイベントは成り立たない
希望者がボランティアとして参加できるよう、もっと広く募集してほしい
スポーツボランティアの楽しさを周知した方がよい
本当にスポーツボランティアをやりたい人が集まっているのか疑問である

資料：令和元年度スポーツに関する市民意識調査

#### ■課題■

##### スポーツをささえる人材

スポーツ指導者について、スポーツ関係団体に対する意向調査によると高齢化や育成の難しさを感じている団体が多いことが分かります。また、スポーツ指導者が活用されていない状況もあります。このため、若い世代からも指導者を育成するとともに、スポーツ指導者の活動の場を充実させる必要があります。

スポーツボランティアについて、スポーツイベントを開催する上で必須ですが、希望者が参加できるような募集方法が望まれています。このため、スポーツボランティアを広く募る方法を検討する必要があります。

## (2) スポーツをささえる団体

## ■現状■

## 富士市スポーツ協会

本市におけるスポーツの普及推進、市民の健康体力づくりの推進、競技力の向上、スポーツ精神を養うことを目的に活動しています。

登録状況の推移

(人)

No.	加盟団体名	H27	H28	H29	H30	R1
1	アーチェリー協会	20	11	8	10	10
2	合気道協会	60	61	52	56	56
3	インディアカ協会	370	345	345	361	280
4	空手道連盟	501	502	502	502	511
5	弓道協会	118	118	116	120	122
6	グラウンドゴルフ協会	325	306	307	304	293
7	クレー射撃部	159	159	143	143	143
8	ゲートボール協会	94	115	104	87	76
9	剣道連盟	890	890	900	880	860
10	ゴルフ連盟	69	61	67	67	39
11	サッカー協会	2,591	2,429	2,429	2,415	2,229
12	山岳協会	22	22	22	22	22
13	柔道会	67	80	76	103	106
14	少林寺拳法協会	120	110	110	88	82
15	新体操協会	90	82	92	104	62
16	水泳協会	46	48	49	49	49
17	スキー協会	50	50	50	50	50
18	スケート協会	4	4	10	6	4
19	スポーツチャンバラ協会	23	26	26	16	14
20	ソフトテニス協会	405	1,511	1,511	1,208	1,309
21	ソフトボール協会	1,392	1,598	1,598	795	765
22	体操協会	44	52	50	45	40
23	卓球協会	802	1,285	1,116	1,040	1,306
24	テニス協会	1,223	1,154	1,154	1,091	1,118
25	トライアスロン協会	28	24	24	24	24
26	なぎなた連盟	30	32	40	35	36
27	ファミリーバドミントン協会	460	460	460	361	361
28	バスケットボール協会	974	1,185	1,185	1,458	1,458
29	バドミントン協会	380	667	667	386	549
30	バレーボール協会	1,254	1,180	1,180	1,646	1,500
31	パワーリフティング協会	40	40	40	23	20
32	ハンドボール協会	50	50	50	128	50

(人)

No.	加盟団体名	H27	H28	H29	H30	R1
33	パークゴルフ協会	75	81	80	82	63
34	ふじかわ体育振興会	102	95	93	95	96
35	フライングディスク協会	70	65	65	7	7
36	ボウリング協会	132	140	140	120	92
37	野球連盟	2,467	2,200	2,140	2,085	2,019
38	ライフル射撃協会	7	7	6	6	5
39	陸上競技協会	50	50	50	50	50
40	スポーツ少年団	2,049	1,979	1,894	1,818	1,744
41	中学校体育連盟	6,300	5,605	5,447	5,184	5,149
合 計		23,953	24,879	24,398	23,070	22,769

資料：富士市スポーツ協会

### 市内の総合型地域スポーツクラブ

多種目、多世代、多様な技術レベルを基本に、地域住民が自発的、積極的に集まりクラブ運営をすることで、自らのスポーツ環境を整えることを目的に活動しています。

(人)

No.	クラブ名	種 目	会員数
1	Fuji Tennix	テニス、ソフトテニス	33
2	富士スポーツクラブ	サッカー、テニス、ハンドボール	201
3	F-SPO	ドッチビー、スポーツウェルネス吹矢など	162
4	吉原クラブ※	卓球	13

※しずおか型（多種目、多世代、多様な技術レベルのうち1つ以上満たすクラブ）資料：富士市スポーツ振興課

### 富士市レクリエーション協会

本市における運動適性や健康状態に応じたスポーツ・レクリエーションの普及推進、市民の健康体力づくりの推進を目的に、高齢者や障害者のスポーツ教室などを実施しています。

### 富士市スポーツ推進委員会

スポーツ基本法第32条第1項の規定に基づく市非常勤職員で組織し、地域のスポーツを推進するため、スポーツに関する教室の企画・指導などを行っている。

(人)

区分	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0	2	17	20	18	57
女性	0	2	3	8	10	23
合計	0	4	20	28	28	80

資料：富士市スポーツ振興課

■調査結果■

スポーツ関係団体の運営について (％)

設 問	割合
登録者・会員数が増えない（減少している）	63.7
団体運営を行う人材が少ない	63.7
団体運営を行う者が高齢化している	54.6
他のスポーツ関係団体との連携が弱くなってきている	54.6
団体の運営費が少ない	45.5
団体内の連携が弱くなっている	18.2

※「感じる・やや感じる」と回答があった割合

資料：令和2年度スポーツ関係団体意向調査

(参考)

本市所在の民間スポーツ施設事業者

分 類	事業者数
スポーツ施設提供業	3
体育館	1
ゴルフ場	4
ゴルフ練習場	6
ボウリング場	1
テニス場	3
バッティング・テニス練習場	1
フィットネスクラブ	26
スポーツ・健康教授業	9

資料：令和3年度社会教育調査のうち民間体育施設を対象とした調査（社会教育課）

■課題■

スポーツをささえる団体

スポーツ関係団体の運営について、登録者数・会員数が増えないことや団体運営を行う人材が少ないと感じている団体が多いです。このため、各団体がスポーツ活動を継続できるよう、若い世代の登録者・会員の加入及び他のスポーツ関係団体との連携強化を図る必要があります。

また、本市は、これまでフィットネスクラブやゴルフ練習場などスポーツ施設等を経営している民間事業者との情報交換を行っていなかったことから、今後は定期的に行っていく必要があります。

### 3. スポーツ環境

#### (1) スポーツ環境

##### ■現状■

公共のスポーツ施設

No.	施設名	開設年
1	富士川緑地（左岸・右岸）	昭和 49（1974）年
2	富士総合運動公園 野球場	昭和 51（1976）年
3	富士体育館附属卓球場	昭和 52（1977）年
4	東球場	昭和 52（1977）年
5	厚原スポーツ公園	昭和 56（1981）年
6	富士総合運動公園 陸上競技場	昭和 57（1982）年
7	富士総合運動公園 庭球場	昭和 59（1984）年
8	富士総合運動公園 相撲場	昭和 60（1985）年
9	富士総合運動公園 弓道場	昭和 61（1986）年
10	富士総合運動公園 運動広場	昭和 61（1986）年
11	富士総合運動公園 管理棟	平成元（1989）年
12	富士体育館附属富士柔剣道場	平成 3（1991）年
13	富士体育館	平成 3（1991）年
14	富士川体育館	平成 7（1995）年
15	砂山公園プール	平成 8（1996）年
16	富士川河川敷憩いの広場	平成 10（1998）年
17	東部スポーツ広場	平成 18（2006）年

#### 総合体育館の整備

平成 28 年 10 月から富士総合運動公園体育館が耐震強度不足により利用を中止することになり、市民の体育館に対する需要が逼迫し、総合体育館の建設が急務となりました。

平成 30 年 6 月に富士市総合体育館整備基本構想を、令和元年 6 月に基本計画を策定し、市民スポーツの推進を図るとともに、合宿を中心としたスポーツ交流、スポーツツーリズムを推進するために整備を進めています。

#### 学校体育施設の利用状況（令和元年度）

	小学校	中学校	市立高校	合計
学校数（校）	27	16	1	44
開放日（日）	6,565	3,850	303	10,718
体育館（回）	10,904	8,267	470	19,641
運動場（回）	5,063	803	455	6,321
庭球場（回）	—	—	378	378
利用者数（人）	409,277	149,835	38,731	597,843

資料：富士市スポーツ振興課

## 歩く健康づくり一万歩コース

No.	地区	距離	No.	地区	距離
1	伝法	7 km	13	富士	7.9km
2	吉永・原田	6.5km	14	丘	7 km
3	今泉	5 km	15	吉原	6 km
4	岩松	5.6km	16	浮島	7 km
5	田子浦	7.5km	17	広見	6.7km
6	元吉原	6.1km	18	青葉台	7.2km/8.4km
7	神戸	5 km	19	富士川	6 km
8	天間	6.5km	20	松野	8.2 km
9	須津	5.8km/6.7km	21	岩松北	6.5 km/9.5 km
10	大淵	6.9km	22	富士北	4.6 km/7.9 km
11	鷹岡	5.2km/9.6km	23	吉永北	4.2km/6.8km
12	富士南	6.1km			

資料：富士市スポーツ振興課

## ■調査結果■

いつでも誰でもスポーツに親しむ環境が整っているか (％)

選 択	割合
十分整っていると思う	0.8
整っていると思う	10.3
普通	47.8
あまり整っていないと思う	31.8
全く整っていないと思う	5.1

公共のスポーツ施設に対して望むこと（複数回答） (％)

設 問	割合
小規模でも、身近で気軽に利用できるような施設	46.7
トレーニングルームなど個人でも利用しやすい施設	36.6
交通の便がよい施設	25.7
日常的な練習会場として予約がとりやすい施設	20.3
遅い時間まで利用できる施設	18.6
各種教室が常時開催されるような施設	18.3
大会を観戦しやすい施設	10.9
全国大会が開催されるような規模の施設	10.2
障害のある人でも利用しやすい施設	8.6
早朝も利用できる施設	6.6
その他	3.3
特にない	12.1

資料：令和元年度スポーツに関する市民意識調査

スポーツ施設に関する意見及び要望

自由意見
ニュースポーツの用具を完備した施設を増やしてほしい
施設の老朽化や設備の劣化が著しく、交換や修繕などの対策が必要である
身体に障害のある利用者や観覧者にとって利用しにくい箇所がある
衛生面等に課題のある施設がある
施設に対して駐車場が不足している
大会利用が集中した場合、一般利用者は施設を利用できない状況がある
競技人口に対して施設が不足している

資料：令和2年度スポーツ関係団体意向調査

■課題■

スポーツ施設

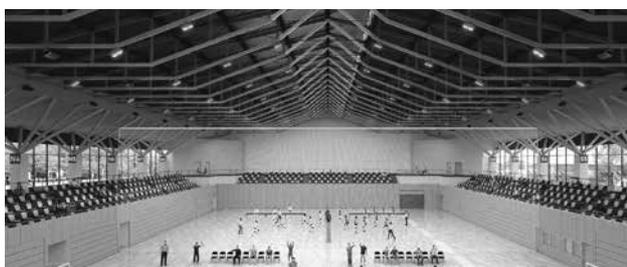
スポーツ施設の多くは、建設から20年以上が経過しており、古い施設は45年になります。また、ユニバーサルデザイン・バリアフリーに対応した施設が少なく、誰もがスポーツに親しむ環境が整っていません。このため、誰もが安全に利用できるスポーツ施設の整備が必要です。

総合体育館の整備は、市民スポーツと合宿を中心としたスポーツ交流を推進するため、着実に進める必要があります。

身近なスポーツ環境

身近なスポーツ環境として、小中高校体育施設を開放するとともに、地区まちづくりセンターを起終点とする一万歩コースを市内23コース設定していますが、市民意識調査では、小規模でも身近で気軽に利用できるスポーツ施設を望んでいる人が多い状況となっています。このため、身近なスポーツ環境の普及啓発を図るとともに、身近なスポーツ環境を充実させる必要があります。

令和7年オープンに向けて整備を進める総合体育館のイメージ



**(2) 情報発信****■現状■**

スポーツ関連情報の提供

	H27	H28	H29	H30	R1
市ウェブサイトへのアクセス数 (件)	38,447	71,788	73,246	65,529	61,016
教室案内等の送付件数 (件)	1,689	1,975	1,778	2,152	2,116
市広報紙へのスポーツ関連記事掲載件数 (件)	154	147	174	155	142
ふじすぽ info 登録者数 (人)	262	292	291	279	706

※ふじすぽ info は市が配信するスポーツ関連情報メールサービス

資料：富士市スポーツ振興課

**■調査結果■**

自分が参加できるスポーツや運動に関する情報の入手方法 (複数回答)

(%)

選 択	割合
広報紙 (広報ふじ)	58.7
知人・友人・家族	28.1
新聞	20.9
チラシ・ポスター	18.2
インターネット (富士市ウェブサイトを除く)	9.7
町内会の会合	8.4
スポーツカレンダー	5.7
富士市ウェブサイト	4.3
テレビ (ケーブルテレビ3チャンネル「ふじ広報室」を除く)	3.9
雑誌	2.7
コミュニティエフエム放送 Radio-f「富士市インフォメーション」	1.2
ケーブルテレビ3チャンネル「ふじ広報室」	0.6
ラジオ (コミュニティエフエム放送 Radio-f「富士市インフォメーション」を除く)	0.4
富士市メールサービス「ふじすぽ info」	0.3
市議会議員や市職員を通じて	0.3
富士市コールセンター「おしえてコールふじ」	0.2
その他	1.2
特にない	18.7

資料：令和元年度スポーツに関する市民意識調査

**■課題■****情報発信**

自分が参加できるスポーツや運動に関する情報の入手方法は、各世帯に配布している「広報ふじ」の58.7%が最多でした。インターネットが普及している中で、「市ウェブサイトを除くインターネット」は9.7%でした。このため、様々な媒体を活用して積極的に情報発信をしていく必要があります。

## 4. スポーツ交流

### (1) スポーツによる市のにぎわいや活性化

#### ■現状■

全国規模等のスポーツイベント（令和元年度） (人)

No.	大会名	参加・観客
1	ウルトラトレイル・マウントフジ	2,450
2	全日本アルティメット選手権大会（中部地区予選）	2,000
3	ディスクラフト・アルティメットオーブントーナメント	4,200
4	クラブチャンピオンズリーグ（アルティメット）	1,300
5	全日本U21アルティメット選手権大会西日本地区予選	2,000
6	G A I A U L T I M A T E C U P	3,600
7	富士山女子駅伝（全日本大学女子選抜駅伝競走）	4,630
8	栄光杯ソフトボール大会	1,400
9	B o o n Y o u n g S t a r C u p（アルティメット）	2,000
10	アルティメット・ドリームカップ	※ 2,500
11	文部科学大臣杯全日本少年春季軟式野球大会	※ 1,200

※No.10 とNo.11 の参加・観客は前年度実績

資料：富士市スポーツ振興課

コンベンション等開催事業補助金交付のスポーツ大会参加者宿泊総数 (泊)

	H27	H28	H29	H30	R1
宿泊数	11,475	13,668	14,048	15,695	10,633

資料：富士市富士山・観光課

#### ■調査結果■

スポーツは市のにぎわいや活性化につながると思うか（%）

選 択	割合
非常にそう思う	21.0
ややそう思う	44.9
どちらともいえない	21.9
あまりそう思わない	7.6
全くそう思わない	1.8

資料：令和元年度スポーツに関する市民意識調査

#### ■課題■

##### スポーツによる市のにぎわいや活性化

富士山女子駅伝やアルティメット全国大会などの大規模なスポーツ大会・イベントを継続して開催し、スポーツ交流の推進を図ることが重要です。また、民間合宿施設の開場など、スポーツによる誘客や経済波及効果への期待が高まる中で、スポーツ施設の整備や官民連携による受入体制等の充実を図ることが求められています。

## (2) サイクルスポーツ

### ■現状■

#### プロサイクリングチームの活動拠点

地域密着型のプロサイクリングチーム「レバンテフジ静岡」が本市に拠点事務所を設置し、活動をしています。また、レバンテフジ静岡は、令和2年8月に本市とサイクルスポーツを通じた地域づくりの連携協定を締結し、地域に密着した様々な活動を展開しています。

#### 自転車競技大会

県内では自転車競技大会が開催されているが、市内では自転車競技大会の開催実績がなく、市民を対象としたウェブアンケート調査では、「自転車競技を観戦したことがある」と回答した人が4.6%と少ない状況です。

#### サイクリングコース

市周辺には、インバウンド需要が期待される、駿河湾沿いに設定されたナショナルサイクルルート「太平洋岸自転車道」や富士山を周遊する県モデルルート「富士山一周サイクリングルート」がありますが、両方のコースとつながる市内のサイクリングコースが整備されていません。

### ■課題■

#### サイクルスポーツ

地域密着型プロサイクリングチーム「レバンテフジ静岡」が本市に拠点事務所を設置し、様々な活動を展開しています。また、市周辺に大規模なサイクリングコースがありますが、そのコースとつながる市内のサイクリングコースが整備されていません。このため、市民の自転車に対する関心を高められるよう、レバンテフジ静岡と連携して自転車競技を「みる」「する」機会を創出するとともに、観光客やサイクリストを市内に引き込むためのサイクリングコースの整備と良好な観光サービスを提供する施設の充実が必要です。



令和3年11月にオープンしたサイクルステーション

(3) スポーツを通じた交流

■現状■

周辺市町との広域連携

県内の富士山麓4市1町で構成する富士山ネットワーク会議では、富士山1周サイクリングなど大規模なスポーツイベントの開催支援や、県東部地域の企業を中心に県、市町、商工団体、金融機関などが会員となっている県東部地域スポーツ産業振興協議会では、スポーツツーリズムの創出に取り組んでいます。

海外の国や都市とのスポーツ交流

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、本市がスイス連邦とラトビア共和国のホストタウンとなり、スポーツを通じて新たな関係を築いています。

年 月	相 手	目 的
令和元(2019)年 6月	スイス連邦水泳チーム	2019年世界水泳選手権事前合宿
令和3(2021)年 7月	スイス連邦水泳チーム	東京2020オリンピック事前合宿
令和3(2021)年 8月	ラトビア共和国 陸上・水泳チーム	東京2020パラリンピック事前合宿

■課題■

スポーツを通じた交流

既存の広域連携によるスポーツイベント等の開催支援を継続するとともに、本市の魅力さをさらに高めていくため、周辺市町との新たな連携づくりに取り組む必要があります。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に本市がホストタウンとなったスイス連邦やラトビア共和国のほかに、本市と縁のある海外の国や都市ともスポーツを通じた交流を進めていく必要があります。



2019年世界選手権事前合宿でのスイス水泳チームと市内中学生との交流

## 5. 現行計画の評価・取組

本市では、平成22(2010)年3月に『富士市スポーツ振興計画』を策定し、「いつでも・どこでも・いつまでも スポーツは人生のともだち」を基本理念に掲げ、「生涯スポーツの推進」、「人材の育成」、「スポーツ施設等の整備・活用」、「身近な地域でのスポーツ」、「スポーツ関連情報の提供」、「スポーツによるシティプロモーション」を基本目標とし、各施策を展開してきました。

各目標に対する評価及び施策ごとの取組は以下のとおりです。

◎：目標を達成した	○：目標を達成していないが、基準値より増加
△：基準値と同水準	×：基準値より減少

指 標	基準値 平成20年度 (2008)	実績値 令和元年度 (2019)	目標値 令和2年度 (2020)	評価
1 成人の週1回以上のスポーツ実施率	34.6%	43.0%	65.0%	○
2 スポーツ協会の会員数	25,824人	22,769人	27,000人	×
3 公共スポーツ施設の利用者数	760,243人	964,571人	1,010,000人	○
4 地区体育祭参加者数	50,123人	30,314人	60,000人	×
5 市広報紙へのスポーツ関連記事掲載件数	79件	142件	150件	○
6 市コンベンション等開催事業補助金申請のあったスポーツ大会参加者宿泊総数	14,000泊	11,905泊	17,000泊	×

### (1) 生涯スポーツの推進

- ・市民エンジョイスportsデーを開催し、各種競技スポーツやニュースポーツの体験、体力測定之机会を創出するとともに、公共スポーツ施設を無料開放しました。
- ・親子スポーツ教室やウォーキング教室など、子どもから高齢者まで参加できる各種スポーツ教室やまちづくりセンター講座などを開催しました。
- ・市主催事業として、市民水泳競技大会と富士駅伝競走大会を開催しました。
- ・総合型地域スポーツクラブ等と連携して障害のある人のスポーツ教室を開催しました。
- ・市とスポーツ協会の共催で市スポーツ祭を開催しました。

## (2) 人材の育成

- ・スポーツの普及及び市民の健康体力づくりを推進するため、スポーツ協会が行う事業に対し補助金を交付しました。
- ・スポーツリーダーバンク登録者やスポーツ推進委員などスポーツ指導者を対象とした指導者講習会や研修会などを開催しました。
- ・市と富士市医師会の共催でスポーツ指導者等を対象としたスポーツ医学講演会を開催しました。
- ・富士山女子駅伝など大規模なスポーツイベントを開催するため、地区まちづくり協議会や各種団体等にボランティアの協力を依頼しました。

## (3) スポーツ施設等の整備・活用

- ・公共スポーツ施設を安全に安心して利用できるよう、指定管理者に運営管理を委託するとともに、大規模改修及び維持修繕を実施しました。
- ・学校教育に支障のない範囲で、地域のスポーツ施設として小中高校の体育施設を一般開放しました。また、利用者の利便性を向上させるため、鍵管理機を導入しました。

## (4) 身近な地域でのスポーツ

- ・市民のスポーツ活動及び健康体力づくりを推進し、地区の交流を活発にするため、地区体育祭の主催者に補助金を交付しました。
- ・身近な地域で子どもから高齢者までが一緒になってスポーツに親しむことのできる総合型地域スポーツクラブの活動支援や連携事業を実施しました。

## (5) スポーツ関連情報の提供

- ・スポーツ教室などスポーツ関連事業を広く周知するため、公共施設等での掲示や過去の参加者等への案内など、積極的に普及啓発を行いました。
- ・広報ふじへの掲載をはじめ、市ウェブサイトやSNSによる情報発信など、様々な媒体を活用して情報を提供しました。
- ・市のメールサービスを活用して、ふじすばi n f o登録者に広報ふじ掲載のスポーツ関連情報等を月に2回配信しました。

## (6) スポーツによるシティプロモーション

- ・ふじかわキウイマラソンや富士駅伝競走大会などの市主催事業に市外から多くの参加者を呼び込み、富士市の魅力を発信しました。
- ・平成23年まで富士山ネイチャーウォークを、平成26年まで富士登山を実施しました。
- ・スポーツ大会の誘致及び留置をするため、参加者宿泊費用や送迎バス借上げ料に対する補助金を交付しました。
- ・全国ネット生中継の中で大学女子日本一を決定する富士山女子駅伝や、富士山麓を走る日本最大級のトレイルランニング大会の開催市として共催しました。

## 6. 課題のまとめ

本市におけるスポーツの現状や世論調査及び意向調査の結果、現行計画の評価・取組などを総合的に考察し、課題を整理しました。

### (1) 市民のスポーツ活動

#### ①子どもの体力とスポーツ活動

子どもが心身ともに健康維持ができるようスポーツを「する」機会だけでなく、スポーツに興味を持つきっかけづくりとして「みる」機会も創出するとともに、子どもの体力を向上させるための運動習慣を定着させることが必要です。

#### ②成人のスポーツ活動

成人の中でも家事、仕事、育児などでスポーツをする時間がない働き盛り世代や子育て世代のスポーツ実施率が特に低いため、個々の生活に合わせてスポーツに取り組める機会の提供が必要です。

#### ③高齢者のスポーツ活動

「心身の健康の維持・増進」や「趣味・生きがい・楽しみづくり」をスポーツに期待する人は多いため、高齢者でもできるスポーツ・運動の普及や始めるきっかけづくりの提供が必要です。

#### ④障害者のスポーツ活動

スポーツ・レクリエーションを実施した障害者の多くは、ストレスの解消や身体的機能の向上などの効果を体験している人がいるため、より多くの障害者にスポーツ・レクリエーションの機会を提供することが必要です。

### (2) スポーツをささえる人材・団体

#### ①スポーツをささえる人材

スポーツ指導者の高齢化が進んでいるため、若い指導者の育成を図るとともに、スポーツ指導者が活動できる場を増やしていく必要があります。また、スポーツイベントに欠かせないボランティアを広く募集する方法を検討するとともに、資質向上を図る必要があります。

#### ②スポーツをささえる団体

各種スポーツ団体の登録者・会員及び団体運営を行う人材が高齢化・減少しているため、団体がスポーツ活動を継続できるよう、特に若い世代の登録者・会員の増加を図る必要があります。

### (3) スポーツ環境

#### ① スポーツ環境の整備

建設から 20 年以上経過しているスポーツ施設が多いため、誰もが安全にスポーツに親しむことのできるよう維持・改修を行っていくとともに、市民スポーツとスポーツ交流の拠点施設となる総合体育館の整備を進める必要があります。

#### ② 身近なスポーツ環境の充実

学校体育施設や歩く健康づくり一万歩コースをはじめとした、身近なスポーツ環境を充実させるとともに、誰もが手軽な方法で入手できるスポーツ関連情報の充実が必要です。

### (4) スポーツ交流

#### ① スポーツによる市のにぎわいや活性化

スポーツに適した本市の豊かな地域資源を活かし、スポーツ交流のための拠点機能を充実させるとともに、全国規模のスポーツ大会・イベントやスポーツ合宿を誘致し、スポーツ交流を推進することが必要です。

#### ② サイクルスポーツ

地域密着型プロサイクリングチームとの連携により、自転車競技を「みる」「する」機会の創出とともに、観光客やサイクリストを市内に引き込むためのサイクリングコースの整備や良好な観光サービスの提供が必要です。

#### ③ スポーツを通じた交流

本市の魅力を一層高めていくため、周辺市町との新たな連携を推進するとともに、本市がホストタウンとなった国等とスポーツを通じた交流を将来にわたって発展させていく必要があります。



富士山女子駅伝で力走する選手